

第3学年 総合的な探究の時間 学習指導案

比叡山高等学校 第3学年担任 岡崎大地

1. 単元名「ほんとのまちがいさがし

～マイクロアグレッションを知る～

2. 単元の目標

- ・『まちがいとちがい』を正しく認識できる。
- ・知らずに使われている差別的な言葉（マイクロアグレッション）があることを理解する。
(知識・技能)
- ・誤った言葉（差別用語）がなぜダメなのかを理解し、その言葉に変わる言葉を考えることができる。
- ・周りの人とのちがいから多様性を客観的に考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・マイノリティの立場で人権を考え、マイクロアグレッションの解消に向けて取り組むことができる。
- ・ダイバーシティ（多様性）を理解し、包摂的に取り組むことができる。
(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

周りとのちがいをまちがいだと潜在的に勘違いしてしまうことで、不安に感じたり、相手を不安にさせてしまい、酷い場合、差別やいじめに発展してしまったりする危険性がある。このまちがいとちがいを根源的に正しく認識するためにこの単元を設定した。

こうした集団生活のまちがいは社会におけるマイノリティのマイクロアグレッションを考える上で重要だと考える。

誰もが安心して過ごすことができる社会をつくるために、身近なことから取り組めることを模索していく。

(2) 生徒観

高等学校における人権教育は、統一LHRの時間に一齐に講義をきき、学習している。クラスの人と交流しながら、クラスの中でのダイバーシティ（多様性）を感じ、この単元に取り組みたい。

第三学年では、人間関係ができており、普段交流のない生徒同士のコミュニケーションがとりにくい状況である。しかし、できる限りの多様性を認識するためには、普段話さない生徒とコミュニケーションをとる必要がある。グループが活発に活動できるように、導入のアイスブレイクの時間も大事にしていきたい。

(3) 指導観

人権について、基本的な人権の尊重という言葉は知っているが具体的な内容は不明瞭である。基本的人権のうち『平等権』に焦点を当てて、指導していきたい。

マジョリティに位置していると無意識にマイノリティのことを排他的に扱ってしまうことを認識し、「年齢」「性別」「人種」「出身」「所属（家庭）」「身体」などの広い視点で考え、SDGsが掲げている『誰ひとり取り残さない』社会をつくっていくためにできることを考えさせたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性：同じ学年、同じ地域に通っているクラス内でも多様性があることを理解する。日本中、あるいは世界中にもさまざまな違いを認識し、マジョリティの中で無知であることの無責任さを実感し、マイノリティに寄り添って考えることができる。

公平性：差別用語やマイクロアグレッションによって、傷ついている現状を知り、誰もが安心してコミュニケーションをとることができる方法を模索する。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力：普段話さない人ともコミュニケーションをとっていき、円滑に意見を交わし、ちがいを相互理解する。

つながりを尊重する態度：人種や国籍、年齢問わずかわり合いをもち、それぞれの人の立場になって考えることができる態度を養う。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

互いの人権・文化を尊重すること：「年齢」「性別」「人種」「出身」「所属（家庭）」「身体」などのちがいを理解し、マジョリティとマイノリティの両方の視点から、互いを尊重しながら、コミュニケーションをとる重要性を理解する。

・達成が期待される SDGs

10. 人や国の不平等をなくそう

16. 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
<p>① まちがいがあると認識することでおこる不安や疎外感を理解している。</p> <p>② 差別用語、マイクロアグレッションについて、マイノリティの視点で理解している。</p>	<p>① 『らしさ』『らしくなさ』にあるバイアスについて、マイノリティの立場から考えている。</p> <p>② 差別用語やマイクロアグレッションから起こる問題を考えている。</p>	<p>① 人権に関係のある問題について、主体的に考え、解決しようと取り組んでいる。</p> <p>② 他者と協働して、誰もが過ごしやすい社会づくりについて模索している。</p>

5. 単元の指導計画（全4時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価
(1) 2時間	<p>○グループに分かれ、2つのイラストの『まちがいさがし』をする。(アイスブレイクの時間) 5分間ずつ程度</p> <p>○マイクロアグレッションを含んだ2つのイラストを見て、『らしい』『らしくない』を見つけさせる。</p>	<p>・制限以内にどれだけの数を見つけられるか、ゲーム性をもたせて実施する。(一番見つけた班は席替えで好きなお座りをする券獲得など)</p> <p>・『まちがいさがし』は正しい絵と間違っている絵を示す。(左のイラストに『正』、右のイラストに『誤』と明記しておく)</p> <p>・マイクロアグレッションを含んだイラストは簡単な例題を示しながら、進めていく。</p> <p>・協働して取り組めていなければ、指導する。</p>	<p>観察・ワークシート (知・技①, 思・判・表①)</p>
	<p>○『らしさ』『らしくない』をより具体的に差別用語, マイクロアグレッションとして、具体的に考える。</p>	<p>・マイクロアグレッションにまつわる映像を見せる。(蚊に刺され続ける苦しみの比喻)</p> <p>・ワークシートの差別用語やマイクロアグレッションについて、タブレットを使わずに、考えさせる。</p> <p>・差別用語やマイクロアグレッションに変わる言葉を知らなければ、自分でつくるように促す。</p>	<p>ワークシート (知・技②, 思・判・表②)</p>
(2) 2時間	<p>○いくつかの差別用語について、なぜ差別用語として認識されているかを考える。</p> <p>○マイクロアグレッション「年齢」「性別」「人種」「出身」「所属(家庭)」「身体」に分類</p>	<p>・マイクロアグレッションの文章(ラミネート加工)に年齢なら赤のシールなど、6色のシールを貼って分類させる。←各々2ずつもってと指示して全員が取り組めるよう工夫してもよい。</p>	<p>観察・ワークシート (知・技②主①)</p>

	<p>する。</p> <p>○差別用語とマイクロアグレッションを言われて嫌な順番に並び替えてみる。</p>	<p>・それぞれの用語や文章（ラミネート加工）を班全員が動かせるように準備をする。</p>	<p>観察・ワークシート（思・判・表②主①）</p>
	<p>○各班の取り組みを発表し、共有する。</p> <p>○マイノリティもマジョリティも過ごしやすくするためにはどうすべきか、考える。</p>	<p>・各班のマイクロアグレッションや差別用語の受け取り方の違いを知り、感性のダイバーシティ（多様性）を認識させる。</p> <p>・総評をもとにまとめる。</p>	<p>発表（思・判・表②、主②）</p> <p>ワークシートまとめ（思・判・表②、主①②）</p>

マイクロアグレッションを含んだ2つのイラスト『らしい』『らしくない』

AIで画像生成

例：若者のゲーム実況者と高齢者のゲーム実況者

黒人よりも足の速い白人

女性の保育士と男性の保育士

外で遊ぶ子ども（5歳児程度）と屋内でテレビゲームをしている子ども（5歳児程

度）

授業で発言する生徒と授業で寝ている生徒

国枝慎吾選手（車椅子テニス）と錦織圭選手（テニス選手）←どちらも『らしい』と

認識できるイラスト

差別用語、マイクロアグレッションの例

・差別用語

『外人』『先公』『土方』『上級国民』『奥さん』『ハーフ』『手短に』『足がない』など

・マイクロアグレッション

『まだ若いからこの仕事やめた方がいいよ』

『女子力高いね』『男の子だから我慢しなさい』

『おじいさんやのにSNS使えるってすごいね』

『中国人なのに常識あるね』『独身だから遅くまで残れるよね』

『障がいがあっても普通に過ごせるんだね』

『高身長だと似合う服がたくさんあっていいなあ』

『運動部は大変だね』『〇〇（地名）って田んぼばかりのところ』

『日本人って勤勉だよ』『黒人だからリズム感いいんだ』

など